

《平成29年度の経過と評価》

平成29年度は、平成30年度に向けて、法人全体の施設整備、職員体制の構築のための準備の1年だったこともあり、業務内容及び、職員体制の整理が課題であった。現状の多機能型事業所童里夢の運営体制からの精査、職員の配置転換も踏まえ、平成30年度以降の継続的、安定的な運営体制の構築が求められる。

昨今の障害福祉サービス事業所における虐待報道等、事業所の運営、事業所職員の対応等に厳しい目が注がれる状況の中、法人全体の問題として、事業所全体及び、職員一人一人への意識化、専門職としての倫理、知識、スキルの向上を求められている。現状も業務に追われ余裕がなくなり、対応、細かな配慮が不足してしまうことも見受けられるところも見られ、また、平成30年度、職員異動、職員配置転換に伴い、体制強化、業務の明確化、効率化と共に、職員研修を始め、人材育成を今後も最重要課題として、社会福祉法人、福祉事業所としての社会的責務を果たすことが必要である。

【ばくばくばん】

平成29年度より新規利用者2名が利用開始し、利用者8名となり、生産活動等、支援体制を整備することが優先課題であった。職員の体調不良、療養休暇にともない、体制維持が困難な時もあったが雑貨班を始め他作業班の協力（配達や送迎の対応）を得ることができ店舗営業を継続して行うことができた。しかし、店舗に来店者を増やす取り組みは進んでおらず、平成30年度以降の課題として継続する。利用者の生産活動における作業設定や役割を増やし、生産活動の拡大及び工賃の向上を踏まえた収益の確保が今後も求められる。

【雑貨班】

平成29年度途中より、新規利用者1名が利用開始となり、障害程度が様々な利用者15名の支援の構築が必要となった。生産活動は、委託作業、木工作业を中心にを行い、年度途中よりポスティング代行業務を始めた。作業内容によっては、利用者に関われる部分が少なく、職員の負担が大きくなり、作業班利用者の方の人数、障害特性を踏まえ、業務の整理が課題であった。一方、職員の異動に伴い職員体制が困難な際も、クラブ活動等諸活動では、雑貨班職員が主導で行っており、また、日々の利用者送迎、給食の運搬、そして、パン配達・販売等のパン班への協力体制を作り、生産活動以外の事業所内での貢献も大きい。生産活動では、今後とも諸経費+工賃の確保が出来る生産活動の設定、利用者が過ごしやすい環境設定、及び、利用者に関われる作業種目の拡大、選別が求められる。

【レストラン班】

一作年度末、調理に携わる職員の退職により、3人の職員体制の中、店舗運営を中心に惣菜、お弁当の販売、法人内事業所の給食の提供を行うと共に、7名の利用者への支援を行った。平成29年度途中より、レストラン班職員の補充ができ、職員4名の体制となり、好評を得ていたものの製造や配達での職員に掛かる負担が大きかった弁当の対応も条件付きで受注を受けることができた。取り分け、高齢者グループホームの利用者の昼食として、週1回、弁当を提供し、高齢の皆さんに好評を得ることができた。店舗は一定の来客者数を維持しており、料理に対する評判もよくリピーターも多い。給食は童里夢、

奏樂の利用者、職員分を賄っており、利用者数の増加に対しても、継続、安定して提供することができており、利用者、家族の方々にも好評を得られている。平成30年度以降も継続して両事業の給食の提供を行うこともあり、生産活動以外での貢献度も高い。原材料の高騰、経費削減と課題が多いが、ジャズ演奏等のイベント、ギャラリースペースを活用した企画展、ツイッターを用いた情報発信等、来客者数を増やす取り組みを継続する。

【Pan-Kan製造センター】

一昨年4月の熊本地震からの繁忙期から、落ち着きも見られるが、製造体制も安定し、取引業者も定着したこともあり、平成29年度も前年度並みの受注、売り上げをあげることができ、利用者工賃に反映することができた。利用者支援においては、利用者間同士のトラブルが多く、利用者の関係によっては、同事業場で作業が設定できない状況になり、利用者支援に対する対応に課題が見られた。平成30年度は、職員の配置転換、及び他作業班との連携を増やす体制にすることもあり、現状以上の業務の工夫が求められる。来年度以降も継続した売上げの確保が目標であり、品質の維持・向上をより求めている。

《重点課題に対する取り組み》

1. 運営基盤の強化（運営・管理体制、サービス管理）

平成30年度に移行する体制づくりの期間として、中・長期的視点からの事業運営・体制づくりを行った。管理者会議を設定し、事業所管の協力体制、情報共有体制を整えるが、まだ十分とは言えず、今後も継続した取り組みが必要である。また、職員異動、事業所間業務兼務者に伴う業務の確認も事業所間での調整が必要であり、今後もより協力体制の構築が求められる。

2. 利用者サービスの拡充

利用稼働日を変更し、年間開所日253日に活動日として6日間、新たに設けた。グループ活動では、グループごとに日程を設定したこともあり、調整に課題もみられ、平成30年度は通常稼働日253日+同一の日程で活動日4日を設け実施した。利用者ニーズ、利用者主体を考慮し、利用者自治会を組織したが、十分な時間を設けることができず、利用者の希望を尊重した事業運営を今後も積極的に取り組みたい。

送迎についても、年度途中に新規利用者の増員により、送迎ルートの変更を行い対応し、平成30年度以降の送迎利用者の増加も踏まえ、送迎車両の車両整備を行う。

3. 人材育成/支援力の向上

①.利用者支援の全面的点検

前年度から引き続き、重点課題として、事業所運営体制、利用者支援の全面的な点検、職員の専門職としての力量養成を掲げ、各委員会の組織づくり、法人研修への参加等を通して、各業務、職責、サービスの質について養成を行った。多機能型事業所 童里夢利用者の利用定員は満たしており、現状の体制で利用者支援についての点検、見直しを重点的にやりたい。

2.生産活動、及び諸活動の点検・見直し

生産活動は、生産活動種目、職員体制、利用者の障害特性を考慮し、生産活動と利用者支援のバランスを図りながら実施する必要がある、自主製品の売上金額は減少、利益の確保が厳しい状況が続いている。生産活動では、社会情勢の関係で原材料を始め諸経費の高騰が見られるが、諸経費に対する意識化、管理が不足しており、予算管理、予算執行についても各作業班の意識は希薄であり、今後の課題として、生産活動における諸経費の意識化を図ることをすすめる。また、利用者増員に伴う工賃支給額の増加が必要であり、利益率の向上、生産活動工程の見直し、細分化、マッチングも求められ、来年度の課題と言える。また、売上向上に向けての営業活動についても継続検討が必要である。

3.環境点検、環境整備、建物・備品機器類の点検

前年度までの環境整備として、大きな修繕は終わったこともあり、環境整備についての見直しを中心に行った。業務の効率化、また安全衛生管理における5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を踏まえ、平成30年度は働きやすい環境整備を重点課題とし取り組みたい。

4.福祉サービス専門職としての力量養成(対人支援の観点)

職場全体で福祉サービス専門職としての在り方を見直しとしての取り組みも、即効性は乏しく、今後も継続課題として、人材育成の方向性を出し、福祉専門職としての資質、意識を養い高めるしくみをつくる必要がある。職員研修、各種会議の設定や取り組みにも課題が多く、専門職員としての意識、力量の向上にはまだまだ課題と継続的な取り組みが必要である。平成30年度は新卒職員2名が多機能型事業所 童里夢への配置となり、新卒職員の教育、育成を中心とし、現状の職員の配置転換によるマンネリ化の脱却、また、新卒職員にとっての良き上司、先輩としての意識化を促し、職員の意欲向上を養いたい。

5.業務計画、職員研修の計画的実施

職員体制、主に現場での職員の欠如を意識すると研修の積極的参加が困難であり、職責に応じた計画的な実施が出来なかった。今後も職員体制の構築と共に研修計画の見直しを行なう必要がある、WEB講義等のツールを利用し計画的、定期的な研修をしていきたい。また、業務マニュアル、各種規程についての整備もできておらず、継続した課題として取り組みたい。

《 地域活動:事業所の社会化 》

福祉体験学習・ボランティア体験学習・職場体験学習等 受入日／人数					
受入日	学校名	人数	受入日	学校名	人数
7/21・25 8/1	豊橋商業高等学校	4	8/9	南陵中学校	2
11/15～17	東稜中学校	1			
特別支援学校等現場実習 受入日／人数					
6/7～10	豊川特別支援学校	1	10/24～27	くすのき 特別支援学校	1

社会福祉援助技術実習／その他研修等 受入日／人数					
9月・10月 24日間	日本福祉大学	1			

中堅教員（11年目）研修・社会貢献型研修 受入日／人数					
7/25・26	岩田小学校	1			

日中一時支援事業 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	4	3	2	5	7	2	4	3	4	3	2	3
延べ	8	4	4	14	23	13	18	19	18	13	9	11
年間延べ人数：154人												

《 事業所外生活支援:自立(律)生活訓練(宿泊体験)の連絡・調整 》

自立（律）生活訓練（宿泊体験） 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年間延べ人数：0人												

【障害支援区分別人数】

生活介護

性別	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	合計
男性	3	6	5	0	-	-	-	14
女性	4	6	6	1	-	-	-	17
合計	7	12	11	1	0	0	0	31

就労継続支援 B 型

性別	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	合計
男性	0	1	3	4	0	0	0	8
女性	0	0	1	1	2	0	1	5
合計	0	1	4	5	2	0	1	13

【年齢別人数】

生活介護

性別	20 歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合計
男性	1	3	2	3	5	0	14
女性	2	1	1	7	5	1	17
合計	3	4	3	10	10	1	31

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	31.6	18	47
女性	36.8	19	50

就労継続支援 B 型

性別	20 歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合計
男性	0	1	2	3	1	1	8
女性	0	4	0	1	0	0	5
合計	0	5	2	4	1	1	13

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	33.8	24	60
女性	24.6	22	35

【生産活動 売上金額】

生活介護

月	ばくばくぱん	れすとらん くら	雑貨班	計 (円)
4	504,375	480,640	148,862	1,133,877
5	436,907	428,976	62,242	928,125
6	595,020	474,950	94,540	1,164,510
7	522,278	484,160	187,789	1,194,227
8	486,044	506,290	125,013	1,117,347
9	536,660	598,820	98,426	1,233,906
10	580,714	575,500	58,715	1,214,929
11	586,815	541,640	56,599	1,185,054
12	981,038	577,460	70,402	1,628,900
1	380,937	507,040	100,190	988,167
2	427,397	669,740	91,341	1,188,478
3	540,471	717,250	116,248	1,373,969
計	6,578,656	6,562,466	1,210,367	14,351,489

就労継続B型

月	Pan-Kan 製造センター
4	2,614,779
5	4,111,071
6	3,332,859
7	11,841,075
8	3,261,348
9	4,335,119
10	3,757,711
11	3,613,302
12	2,512,598
1	2,839,572
2	5,261,611
3	7,500,139
計	54,981,184

【原材料費率＝原材料費／売上金】

	ばくばくぱん	れすとらん くら	雑貨班	Pan-Kan 製造センター
売上	6,578,656	6,562,466	1,210,367	54,981,184
原材料	2,454,594	3,201,895	204,111	24,718,088
比率	37.3%	48.8%	16.9%	45.0%